

木祖村議会だより

道しる



7月豪雨災害で早期復旧への予算



令和2年9月25日(金) 木祖中学校 おおとり祭 1年生のダンス

令和2年10月22日

No 170

9月
会議

令和元年度決算認定

村税はダム固定資産税減少により減収、 法人税は増収

9月11日(金)に再開された令和2年木祖村議会9月会議では、以下の議案等について慎重審議し、9月18日(金)全案件を原案通り可決し、同日散会しました。



- ・決算認定6件 (令和元年度決算)
- ・補正予算4件 (令和2年度予算)
- ・人事案件2件 (教育委員)
- ・条例改正1件 (印鑑登録・証明に関する条例)
- ・契約締結2件 (建設工事請負、物品購入)
- ・報告 1件 (令和元年度決算に基づく

健全化判断比率)

令和元年度 村のお金の使い道 (一般会計決算概要)

歳入：29億9671万円 (4326万円増) 歳出：27億9966万円 (4213万円減)
差引 1億9705万円

開村130周年記念事業や農産物加工センター備品、小中学校空調設備等が増えたが、フットボールコート建設、災害復旧費がなくなり歳出は減少

総務費

7億905万円 (4210万円増)

- ・CATV光化推進事業
- ・開村130周年記念事業
- ・地域振興バス 他



民生費

5億236万円 (307万円増)

- ・介護保険・保育所運営
- ・福祉タクシー
- ・子育て支援、社協運営補助 他



衛生費

9394万円 (622万円減)

- ・プレママサポート事業
- ・各種検診、予防接種
- ・リサイクル事業 他



農林水産業費

2億5111万円 (4427万円増)

- ・農産物加工センター備品
- ・大平ため池改修
- ・公有林整備、源流の里森林づくり 他



商工費

1億3971万円 (7511万円減)

- ・プレミアム付商品券補助
- ・観光協会運営補助
- ・こだまの森施設整備 他



土木費

3億6741万円 (1380万円減)

- ・見山地区急傾斜地崩壊対策
- ・村営住宅建設
- ・村道新設、修繕
- ・河畔林整備事業 他



消防費

1億830万円 (545万円減)

- ・第3分団消防ポンプ車更新
- ・ホース乾燥塔設置
- ・防災備品の整備 他



教育費

2億2142万円 (3829万円増)

- ・小中学校空調設備
- ・公民館運営費
- ・村民センター壁修繕
- ・小中学校維持管理費 他



災害復旧費

0万円 (3499万円減)

- ・当年度の災害復旧費はなし



公債費

3億3106万円 (4113万円減)

- ・地方債(過疎対策事業債など)の元利償還金



議会費

3484万円 (61万円増)

- ・議員報酬、共済費など議会運営費用



諸支出金

4046万円 (2137万円減)

- ・森林環境整備基金
- ・木祖村公共施設整備基金他積立



※ () 内の数字は前年度比

令和2年度一般会計補正予算

7月には本村でも記録的な大雨となり、6ヶ所の避難所が開設された。

7月豪雨の災害復旧事業を中心に92,510千円を増額し、総額3,756,470千円となった。

《主な内容》

歳入

・公共土木施設災害復旧費負担金	30,000千円
・林道災害復旧費補助金	3,670千円
・農業用施設災害復旧費補助金	5,000千円
・訪日外国人旅行者受入環境整備 緊急対策事業費補助金	2,842千円
・補助災害復旧事業債	15,000千円
・一般単独災害復旧事業債	18,000千円

歳出

・戸籍・社会保障・税番号制度・システム整備委託料	2,222千円
・転作研修センター玄関タイル改修工事	579千円
・サル接近通報装置更新工事	2,860千円
・藪原駅・鳥居峠公衆トイレ改修工事	7,559千円
・ハザードマップ作成委託料	1,991千円
・宮沢他河川整備調査業務委託料	7,700千円
・奥峰沢川補助災害復旧事業	34,200千円
・木山沢・宮沢河川村単災害復旧事業	14,349千円
・林道水木沢2号線豪雨災害復旧事業	4,882千円
・林道山戸翁像線豪雨災害復旧事業	5,260千円
・農地農業施設豪雨災害復旧事業 (東農地、細島農地、東用水)	11,530千円
・村道岩岳線補助災害復旧事業	17,100千円
・村道清水開拓大平線村単災害復旧事業	6,425千円

人事案件 木祖村教育委員会委員の選任

木祖村教育委員会委員4名の内、2名の任期が終了のため委員選任について、同意されました。

10月1日より4年間教育委員会委員として活動していただく方

●木祖村大字菅

栗屋佳洋氏

●木祖村大字小木曾

笹川美穂氏

9月11日(金) 監査報告

木祖村監査委員である奥原太門氏、安原千佳世氏より下記のとおり報告がありました。

審査に付された各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書はいずれも関係法令に準拠して作成されており、関係書類と照合した結果、その計数は正確であると認められた。また、基金の運用・管理は正確であり、予算執行についても概ね適正であると認められた。

《むすび》

この約10年、税収等減少する中、職員の努力により適切な行政サービスの水準と健全な財政状態が保たれていると考えられます。

しかし、今後はさらに人口減少による税収減が予想される他、公共施設の老朽化等一般財源による事業増加が予想されます。自主財源の確保と特定財源等を積極的に利用しながら、効果的な財源配分に努め、職員が一丸となって英知を結集し、安心して暮らせる村づくりをお願いします。

9月15日(火)

常任委員会連合審査

9月会議

(厚生文教委員会・産業経済委員会)

認定第1号 令和元年度木祖村一般会計歳入歳出決算認定について

問 職員研修の公務員倫理研修の内容及び、その参加人数はどうであったか。

答 県の出前研修制度を活用し2年に1度の研修としている。職員の倫理的な対応等の指導であり、参加人数は28人であった。

問 空き家対策特措法第12条は、どのような内容であり対応等は。

答 空き家が適正に管理できていない所有者に対して、毎年文書で適正な管理の継続をお願いするものである。

問 教員住宅の管理は、村としてどんな管理をしているのか。

答 教員住宅は老朽化しており、今年度中に村営住宅とあわせて管理整備計画の策定を進める。

問 決算付属書の財産関係で田畑が減少している内容はどのようなのか。

答 村として取得したときの地目が「畑」であったものが、地目変更により減少となった。特に売却をしたものではない。

問 きそむらチャンネルの視聴率は、どの程度把握して放送しているのか。

答 多くの村民が見ていると理解しているが、視聴率までは確認していない。今後、視聴率を調べることが可能か確認をする。

問 木祖村職員のメンタルヘルスチェックの結果はどうであったか。

答 現在、療養休暇中の職員はいない。昨年までは多かったが、庁内の機構改革などにより風通しの良い環境に努めている。また、産業医を奥原先生にお願いしており、相談しやすい環境づくりに努めている。

問 トウモロコシの需要に対して、1本あたりの単価を考えて、生産者と生産量が追いついていない状況と思われるが、村主導で生産体制を確立できないのか。

答 去年は白菜農家でトウモロコシの作付面積を拡大した農家があり、道の駅で注文を一括とりまとめて販売する仕組みも作られた。年々少量でも生産量を増やす計画で進めている。白菜など地球温暖化の影響を受けはじめている。価値を上げ、増やすための生産体制の課題について生産者と議論しながら進めていきたい。

問 上下交流事業の「稼ぐ力」を身につけるスタイルが確立された。とはどういう意味なのか。

答 平成29年の木祖村観光協会の一般社団法人化により、地元の商品を下流域等に広く外へ販売するスタイルができた。

問 木曾ペインティングスの活動内容が、住民への説明等が不足していて良く分からない。

答 都会から来て、藪原町並みの活性化のために頑張っている姿に感謝している。コロナ禍で活動が見えにくい状況ではあるが、今年度は11月から開催する予定であり、周知等については今後検討していく。



(厚生文教委員会)

議案第64号 物品購入締結について

問 学習用端末の落札業者は、市町村によって違いはあるのか。

答 市町村によって入札方法も異なるが、同一業者が複数の市町村で落札する場合もある。

問 それぞれ市町村で入札をやって落札金額も違うのか。

答 各市町村で端末本体の他に設定などパッケージがそれぞれ違うので価格も市町村で違いが生じる。

問 タブレットメーカーは市町村で違うのか。

答 各町村によってそれぞれメーカーは違う。



(厚生文教委員会・産業経済委員会)

議案第65号 令和2年度木祖村一般会計予算（第5号）

問 松塩筑木曾老人福祉施設組合のオンライン面会システムの町村負担金の金額はどのような振り分けなのか。

答 新型コロナウイルス感染症対策として、全組合施設へ遠隔面会システム設置による市町村の負担割合を分担しての金額である。

問 村営住宅の今後の管理や老朽化への対応について、どのような管理体制をとればよいのか。

答 実施計画の中で検討していく。村営住宅や教員住宅、職員住宅も含めた計画を今年度中に策定し、計画

的に修繕等行っていく。

問 中田耕平氏の二ホンザル捕獲檻の後継者は今後どのようなになるのか。

答 現在猟友会員の中にもいない状況であるが、調査に関しては、経験を要するので簡単に継続できるものではない。

問 サルの動きの行動範囲はどうなのか。

答 発信機を付けたサルの行動範囲は把握できるが、発信機が無いサルの群れや村外へ移動したものは確認できない。



9月18日(金) 2F大会議室

木祖村議会全員協議会

① 木曽地域の高校の将来像についての意見・提案書について【教育委員会】

説明 木曽地域では、平成2年(1990年)に633人であった中学校卒業生数が、平成20年(2008年)には323人まで減少し、学校規模の適正化が必要な状況になった。今後も減少傾向は進むと推測されるが、子どもの人数が少なくなったとしても、木曽地域を担う人材を育成していくことは永遠に課せられた責務であり、木曽地域の高校2校は「ちいさくてもキラリと光る高校」として存続できるように、今後も、県教育委員会と共に高校改革の情報を地域や地元企業等とも共有し、木曽地域の意向を踏まえた高校改革を進めていただくことを強く望む。

確認 議会としてもその趣旨と内容を理解してお願いをいたしました。

② 水木沢天然林の災害状況について【産業振興課】

説明 7月豪雨災害による水木沢天然林の被災状況は、入口道路の崩落を始め「太古の森」コースの被害が大きい。「原始の森」及び原始の森のコースを先にオープンさせたい。

問 森林管理署への報告はどうか。

答 報告はしてある。沢などの被害については管理署側から話があると思う。村では歩道を借りているため、橋の被害については村で復旧しなければならないと考えている。

問 思ったより被害が大きいですが、概ねどの程度の歳月がかかるのか。

答 重機が入らないので、令和3年度中には全コースを復旧させたいと考えている。

③ 来年のマラソン大会について【産業振興課】

説明 全国各地のマラソン大会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催を延期あるいは中止を余儀なくされている。木祖村の大会としては、自然を満喫しながらゆっくりと滞在できるイメージの大会を求めたい。しかしながら、新型コロナの行方が分からない現在、エントリー数の増加は見込めず、コロナ対策として規模を縮小せざるを得ない状況にある。なお、日本陸上競技連盟の競技会開催は、ガイダンスに沿った大会運営が求められる。

(案) 第34回

やぶはら高原はくさいマラソン大会の開催要領

開催日 2021年(令和3年)7月4日(日)

午前9時スタート

開催場所 スタート・フィニッシュ：こだまの森

実施部門 部門の縮小(二種目程度)

参加費 今後検討

コース (奥木曽湖周回の公認コース)

* 令和3年5月に公認コース検定を実施(有効期限5月31日)

参加目標 今後検討して規模縮小の方向として(1,000名程度)

スケジュールとしては、今年10月頃から進め来年4月上旬に判断、公認コースの検定を受け開催につなげたい。

問 受入れ側としても、役員関係者のコロナ対策も必要かと思う。

答 やる方向で考えたいが、選手の水の補給の仕方など、十分に大会内容を検討する必要がある。

問 他地域での大会の開催があれば、それを参考に検討はどうか。

答 なかなか他の大会も開催されないのが現状であるが、実施する大会があれば参考に検討したい。

意見 実施を前提に取組んでいただきたい。

④ しらかば平別荘地管理棟の改築について 【産業振興課】

説明 しらかば平別荘地管理棟については、本年度設計段階ではあるが、来年度予算編成で辺地債による建築を進めたい。建物は、今現在より少し小さくして駐車場を広くとり、管理棟内のトイレは、簡易水洗の方向で考えている。

問 トイレは管理人がいないと使用できないのか。

答 管理人がいなくても使用が可能である。

問 管理人のスペースはこれで良いのか。



答 図面上、管理人さんとしては使用しにくいので今後検討する。

⑤ 新菟原浄水場の設計進捗状況について【建設水道課】

説明 新菟原浄水場の平面図で、これから計画されている浄水場の設計・設備関係には、外部有識者にも協力いただき再度検討しながら、今後進めるつもりである。当初は、10月から工事を進める予定であったが、設計の見直しをかけているので、工事の開始は少し遅れる予定になる。完成は令和5年の予定である。

問 汚れた水は常に入り込むのか。

答 今回の豪雨による経験を踏まえ「濁度」の基準値以上になると自動的に取水を止めるようにし24時間給水ができる配水設備とする予定。

問 他所からの水の確保はどうなのか。

答 村としても、他から取水ができるか研究し調査を考えたい。

⑥ 国道19号菟原改良について【建設水道課】

説明 全村民に行政懇談会等で示した菟原改良に関して、現在の所、本年度から着手し来年度から着工の予

定である。完成の計画は、令和9年度の予定となっている。



報告

10月3日(土)木祖村議会議員の「丸山幸一さん」がお亡くなりになりました。ご家族とご親族の皆様方には、突然の訃報の事で謹んでお悔み申し上げます。改めてこの場をお借りして、ご冥福をお祈り申し上げます。

木祖村議会議員一同

発議 第2号

請願・陳情について

木祖村9月会議に長野県町村議会より、木祖村議会に請願・陳情1件が提出されました。
これを委員会審議に付託され審議しました。

「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う、地方財政の急激な悪化に対し、 地方税財源の確保を求める意見書（案）」【採択・議決】

提案議員 鈴木正弘

新型コロナウイルス感染症の拡大は、甚大な経済的・社会的影響をもたらしており国民生活への不安が続いて地方税・地方交付税等の一般財源の激減を避けがたくなっている。

地方自治体は、福祉・医療・教育・子育て、防災・減災、地方創生、地域経済活性化、雇用対策など喫緊の財政需要への対応、長期化する感染症対策にも迫られ、かつてない厳しい状況になることが予想される。よって国においては、令和3年度地方財政対策及び地方税改正に向け、下記の事項を確実に実現されるよう、強く要望します。

記

- 1 地方の安定的な財政運営に必要な地方税、地方交付税等の一般財源総額を確保・充実すること。その際、臨時財政対策債が累積することのないよう、発行額の縮減に努めるとともに、償還財源を確保すること。
- 2 地方交付税については、引き続き財源保障機能と財源調整機能が適切に発揮できるよう、総額を確保すること。
- 3 令和2年度の地方税収が大幅に減少することが予想されることから、万全の減収補填措置を講じるとともに、減収補填債の対象となる税目についても、地方消費税を含め弾力的に対応すること。
- 4 税源の偏在性が小さく、税収が安定的な地方税体系の構築に努めるとともに、国税・地方税の政策税制については、積極的な整理合理化を図り、新設・拡充・継続に当たっては、有効性・緊急性等を厳格に判断すること。
- 5 特に固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であり、制度の根幹を揺るがす見直しは、家屋・償却資産を含め、断じて行わないこと。また、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として講じられた特例措置は、本来国庫補助金等により対応すべきものであり、今回限りの措置として、期限の到来をもって確実に終了すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年9月18日 長野県木曾郡木祖村議会

意見書提出先

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣・内閣官房大臣・経済再生担当大臣・まち・ひと・しごと創生担当大臣

一般
質問

村政を問う

5 議員 5 件

- 青木 功議員 1 コロナウイルス終息後の木祖村
- 田中 寛幸議員 1 7月の豪雨災害の対策、教訓を今後どう生かすか
- 鈴木 正弘議員 1 藪原上水道の濁りについて
- 安原千佳世議員 1 「特定地域づくり事業」への取組について問う
- 大久保繁子議員 1 農業施策を問う



青木 功 議員

コロナウイルス終息後の木祖村

答 CATVの有効活用を進めていく

問 各種会合やイベントの中止が継続となる中、村民との接触もままならない状況下において、各自治会を含め村民への行政サービスの低下、また、保育園を含め小・中学校と保護者との連絡等で問題はないのか。

副村長 感染拡大防止に対する情報を村民に迅速、かつ的確に伝えることが重要な行政サービスと考える。家庭と学校の関係は連絡会議の開催、一斉メールの配信等で常に保護者との連携を図っていく。

問 この事を教訓にあらゆる災害に対して強い木祖村を構築するため新たな取組が必要と考える。村はケーブルテレビ光化事業を進めてきたが、ネットワークを利用してオンライン教育、在宅ワーク、ウェブ会議が行われるようになった今、在宅ワークは移住対策としても考えられる。今後、この光化に対しどのような活用を考えていくのか。

副村長 財源確保の課題はあるが、空き家対策の一環としてリモートオフィスとしての活用を検討していきたい。また、CATV設備は地域防災力強化のための通信基盤、子どもや高齢者の見守りを含めた公共福祉の拡充、観光事業等活用方法は多く、新しい生活様式に合わせた高速通信の有効活用をしっかりと検討していきたい。

問 タブレットはペーパーレスによる情報発信、高齢者の安否確認、災害の避難要請等々利便性が非常に高い。新たな取組としてタブレット導入の是非を伺いたい。

副村長 利便性は非常に高いと認識しているが、WiFi環境の整備と共に、アクセスポイントの設置、ネットワーク使用料に対する広域との調整、情報配信アプリの設定等、初期投資とランニングコストに多額の投資が必要であり、CATVの活用が現段階でより現実的な対応と考える。



田中寛幸 議員

7月の豪雨災害の対策、教訓を今後どう生かすか

答 有事の際、的確に対応できるように心がけていきたい

問 今回の豪雨災害での教訓や反省点は。

総務課長 避難勧告や避難指示、消防団の招集のタイミング、情報伝達、要援護者の安否確認、避難所の運営等反省点を総合防災訓練に盛り込み手順を再確認した。引き続き反復した訓練を実施して有事の際、的確に行動できるように心がけていく。

問 広報が聞き取りにくい。広域放送で災害時の動画放送はできないか。

総務課長 緊急時は、防災行政無線を使用している。システム上の問題は改善を行い今後、的確に情報が伝わるように防災ウェブ等も充実していきたい。

CATVでは、現在災害時の動画放送が聴視できる状況にないので厳しいと思われる。

問 荻原で水道水が濁って不純物がでた。水道料金の減免やお知らせ活動の充実は考えているが、水道水が飲めない場合のろ過装置の配備は考えないのか。

建設水道課長 今回は水質基準を下回っていないので減免はできない。周知も全体の状態がつかめていなかったで遅くなってしまった感もある。今後は早めに周知したい。

ろ過装置は防災倉庫に荻原6台、小木曽4台、菅2台の配備がある。

問 今回の豪雨災害で「ハザードマップ・支えあいマップ」等河川の再点検が必要と考えるがどうか。

総務課長 ハザードマップは、水資源機構より浸水想定区域が公表されたことに伴い、今後、塩沢川・笹川・菅川等をハザードマップに掲載する。また、自然災害から、本村や住民の生命、財産を守るための国土強靱化地域計画を作成し、その中で地域の危険個所の拾い出しを行っている。

身近で一番重要と考える支えあいマップも、社協や自治会とも協力して年度内に改訂できるよう考えて行く。



鈴木正弘 議員

荻原上水道の濁りについて

答 水源地の取水整備方法等を検討する

問 本年度7・8月豪雨で、荻原地区各家庭で水が濁り被害の電話相談があったと思われる。新たな第一歩を踏み出した塩沢水源地の取水設備がなぜ濁るのか、どこに原因が有るのか。

建設水道課長 豪雨による急激な濁度変化が原因かと考えられる。また、水道管内にある鉄分・沈殿物が巻き上げられた事も一つの原因と考えられる。

問 塩沢水源地の状況を踏まえ、濁りの水が荻原地区へ流れ込む認識はあったのか。

村長 取水調査時の現場は砂地であった。専門家の意見を聞き伏流水取水設備工事の決断をした。井戸の水量が不足し表流水を使用しなければならない事は残念である。

問 取水方法と集水埋渠設置等の掘り下げの深さに問題は無かったのか。

建設水道課長 調査では掘り下げた深さ0.5m～1mの位置で水が取れた。調査と工事の整合はとれている。

問 水は生命の源であり、生活と命に関わる重大な問

題である。取水設備工事の井戸としては異常だと考えられるが、工事は失敗だったのか。

建設水道課長 砂防堰堤へ溜まった粘土質の泥が井戸の取水を閉塞させている。当初の計画では予想ができなかった。今後、取水設備の改善に努めたい。

問 濁りで泡が浮ぶなど聞いた事がない。水質検査はどうか。

建設水道課長 51項目を検査し基準値以内であった。浄水場給水栓の検査もして濁度も基準値であり給水を継続した。

問 鳥居トンネル入口南側に、新しい荻原浄水場新設が計画されているが、今後濁り水と泡の浮ぶ水を飲ませない為にも、塩沢水源地の問題を解決する事の方が、最優先ではないか。新しい荻原浄水場はその後でもいいと考える。

村長 安定した水を供給する事が、私の政治目標であった。今回の件は大変残念である。今後、浄水場建設と合わせて水源地の取水方法も継続検討し、荻原の皆様綺麗な水が届くよう頑張りたい。



安原千佳世 議員

「特定地域づくり事業」への取組について問う

答 今年度の取組は難しい 来年度以降に検討したい

問 本件については今年の3月会議において一般質問させて頂いた。その趣旨および当村にとってのメリットは3月に説明させて頂いたとおりである。

3月時点では、当村にとってもメリットがあり、国の説明会の開催やガイドラインの内容をみて、前向きに検討するとの回答であった。その後6月に「特定地域づくり推進法」が施行された。

現時点での国・県の動向、他市町村の動向および村当局の考えを聴きたい。

営費や人件費に対し補助金が交付される。5月にオンラインによる説明会が開催され、ガイドラインも提示されたが、地域関係団体等との組合設立に向けた合意形成など条件がなかなか難しくハードルは高い。県内の他市町村ではまだ事例が出ていない。

関係団体としては農協・森林組合・商工会・社協等が考えられる。菅新政権に代わったこともあり、来年度の施政方針に取り込めるかどうか検討していきたい。

意見 来年度予算編成までまだ時間がある。商工会と議論をすすめて頂きたい。

村長 本件については、自民党の細田先生、地元の後藤茂之先生等と源流の里協議会において議論してきた経緯がある。議員立法された法律であり、地域全体で複数の事業者を組み合わせることで年間を通じた仕事を創出する。地域の事業者が組合を設立し、人材を雇用して事業者に派遣するという仕組みである。組合の運



大久保繁子 議員

農業施策を問う

答 農業の母体・人材・施設等の在り方を考えたい

問 木祖村の5年後、10年後の農業を思う時、若者の農業離れ、農業従事者の高齢化等による後継者不足が深刻になり、今後農業従事者の確保が必須だと思いが、どのような施策があるのか。

産業振興課長 農業における後継者不足は全国的な課題であり、本村においても同じと思われる。農業に対するイメージから、若者の農業離れがあり農業従事者の高齢化もある。これらの課題を解決する為には、人と農地の問題がある。その為、「人・農地プラン」に基づき課題解決に向けて進めている。

人の確保に対しては白菜の担い手育成、新規就農者支援など、国の補助事業、村の生活支援事業を合わせて人材育成に努めている。その他、施設の設置、改良、機械購入等への補助等を行い、担い手確保に努めている。

問 要望として、農業の組織化、法人化に向けての啓蒙、指導、支援をお願いしたい。その他、白菜の担い手の研修期間の延長は可能か。

産業振興課長 国の人材投資事業と村の生活支援事業で最大2年間、年間180万円の支援をし、就農後も農業に従事していただければ、それから5年後まで同じように支援をする体制を整えている。

問 他県からの農業就農者に対する支援の充実は。

産業振興課長 外からの受入れ体制として1人より複数の方が良いと思うが、今後も環境になじむよう考え体制作りをしていきたい。

意見 地球温暖化の影響は甚大である。村の農業の為手厚い施策をお願いしたい。

議会活動と研修会情報

令和2年
8月5日水

木曾郡町村議会議員総会 上松町ひのきの里 総合文化センター

本年度、本村の古畑節行議長が郡の会長として、木曾郡町村議会議員総会がコロナ禍・第二波とも言える中で、例年通り開催され、郡内で3名の自治功労被表彰者の表彰もおこなわれました。



郡内6町村の町村長及び議員が出席しました。宣言では、これまでの長い歴史と文化をこれからも継承し、現状を踏まえ木曾郡全体を発展させるには、どのようにすべきか、直面している木曾郡の人口減少と少子化、御嶽山噴火に伴う観光誘客の減少、新型コロナウイルス感染症による「三密」の状況で、これらの国・県からの経済支援による、景気の動向や農林業の維持確保等を推進し「新しい日常生活」をどのように取り入れて取組かを重点に、全議員が認識して全力を尽くすことを誓いました。

提出議題6件の審議があり、本村では、青木 功議員が「木曾地域の医療体制の維持・充実を期す」をテーマに発表されました。

研修会

講演 演題「野生鳥獣対策活動報告」

講師 中田 耕平 氏

(農林水産省) 鳥獣被害対策優良活動表彰「生産局長賞」受賞
(長野県) 長野県ふるさとの森林づくり賞「長野県知事賞」受賞
(木祖村) 「善行表彰」受賞

中田氏は55年間に亘る狩猟の経験によるニホンザルの捕獲檻の考案、GPS端末によるニホンザルの生息行動範囲を研究し、鳥獣対策や森林整備の重要性を大勢の方に知ってもらうため、データを用いて、村内外の講演会の講師として広く活躍されている。



令和2年 9月18日(金)

木祖村福祉施設工事現場 視察

9月会議終了後、福祉施設建設工事現場の視察見学を行いました。9月18日現在での全体の進捗状況は、約6割程度であるとの説明を受けました。

今後は施設の内装工事が始まる予定で、広くて明るいスペース、気密性と断熱性能に優れた木製サッシや、間伐材の活用状況等の説明を受けながら議会と役場職員で視察しました。



元気発見！ むらびと大図鑑

笑ん館 クラフトバンド 代表者 野村 美智子



当サークルは、平成31年4月21日より活動を開始したばかりのサークルです。

数年前から流行り出していた、クラフトバンドを用いて気軽に簡単にバッグや小物を作りたいと思い、木祖村藪原出身で現在春日井市にお住いの片山澄代先生指導（旧姓 田中）のもとサークル活動をはじめました。

サークルメンバー全員が初心者ですが基本の編み方から始まり、1ヶ月に1作品ずつ仕上げるごとにレベルアップ。気

軽に持ち歩けるバッグから、お出かけ用のおしゃれなバッグ・小物・部屋飾りなどいろいろな作品にチャレンジしています。同じ作品でも、用いるバンドの色の組み合わせなどで自分好みの形・大きさに作り上げられるのもクラフトバンドの魅力です。サークルメンバーは作品を制作するのはもちろんですが、メンバー同士のコミュニケーションを楽しみながら活動をしています。どなたでも気軽に参加できるサークルです。ぜひ、気軽に参加してください。新メンバーを募集中です。

活動日：毎月1回 第3日曜日

活動場所：藪原宿にぎわい広場 笑ん館
多目的ホール内



編集後記

新型コロナウイルス感染症の第二波・三波到来とも言える今日。観光支援事業「Go To トラベル」が全国的に展開し、村内にも景気の回復が少し見え始めた気がします。今までの時間を取り戻すには、まだ時間がかかりそうですが、前向きに今後も色々な事に積極的にそして健康第一に活動をしましょう。議会としても、村民の付託に少しでも応えるよう努力し頑張りますので宜しくお願い致します。台風の季節ですので、互いに身の安全を考えて行動して下さい。

木祖村議会報編集委員会 委員長 鈴木正弘 委員 安原千佳世 大久保繁子 田中寛幸